

第 80 回北海道国語教育研究大会 札幌大会 提言	単元名 パルーンカードで道内へ～身近なすごい人紹介します『風船からうちゅうへ』
	日 時 令和 6 年 12 月 18 日(水) 6 校時 児 童 4 年 1 組 男子 12 名 女子 13 名 計 25 名 指 導 者 教諭 渡部 伸野
言葉を通して、豊かな未来を 創造する国語科の学び	個人研究テーマ 聴き合い、投げかけ、学び深める子ども ～そういうことか！ いいこと考えた！～

1. 実践課題について

(1) 児童自らが学びの主体となるための「問い」を生み出す単元・授業づくり

I 自ら問題発見・課題設定していくための「問い」を生むための工夫

「身近にこんなすごい人がいる。」、それは、日々の生活の中では、興味をもって調べない限り気付くことはない。それを知った時、「紹介してみたい」という意識を少しもたせられるかもしれない。どのような要約も、その目的は「相手に伝えること」にある。この相手を道内の小学校、特に「教育出版を採用している地域」にすることにより、「読んだことのない人に的確に伝わる要約にしなければ。」という意識をもてる。

本単元においては、「パルーンカードプロジェクト」として、筆者の取組を紹介するという言語活動を設定する。パルーンカードは定型郵便で送れるサイズにすることで、「この枠内に収めなければならない。」という必要感を生む。

II 他者の言葉・テキストから「問い」を生むための工夫

上記の相手を設定することにより、「きちんと要約しないと恥ずかしい。」「ちゃんとやらないと岩谷さんに失礼になってしまう。」という思いをもたせられるだろう。引用では何のことか分からず、本文を丸々コピーすることは著作権上難しいという狭間に「要約」の必要性が生まれる。同時に、本文を読んでいない人に内容が伝わるように書く必要があるため、精査・解釈の丁寧さが求められることにもなる。書いた要約が、読んだことのない人に伝わるか。この点についてはパルーンカード送付前に、自校の5年生に読んでもらうことで、再検討することができる。

III 自らの表現に対する「問い」を生むための工夫

道内の、本文を読んでいない小学生を対象とすることで、要約への評価意識をもつことができる。また、「人物のすごさを紹介する」ということにとどまらず、自分の思いを広く発信することに「パルーンカード」そのものの目的がある。それは、ひいてはレビューを投稿することや SNS 等で感じ方を発信するといった、不特定多数への情報発信に近い。本単元における「自らの表現」とは「感

想の文章化」であるため、「自分の思いはこの言葉で伝わるだろうか」という評価意識を大切にしたい。

(2) 創造性の発揮に寄与する「学びのつながり」を意識した単元・授業づくり

I 資質・能力ベースで捉えた単元・授業の構成の工夫

本単元では、要約することそのものが学習の対象ではない。したがって、既習とのつながりが肝になる。光村図書の4年生の教科書では、上巻で要約について3時間ほど学んでいる。また、10月中旬には、「大牧さんのメッセージプロジェクト」と題し、本文を読んだことのない6年生に向けて、筆者の考えの代弁者として200字程度で要約する、という学びをした。筆者の考えを中心に要約したことは、本単元における「人物を紹介する」という活動への足掛かりとなるだろう。

II 身に付いた力の自覚を促す、評価の在り方の工夫

本単元において自覚を促したいのは、「一人一人の感じ方に違いがあることに気付けたか」である。これを単元末の評価として取り組んだ場合、「みんな違って、みんないい」という雰囲気で終始する可能性がある。本単元においては、パルーンカードプロジェクトを進める過程で、一人一人の感じ方に違いがあることに気付かせていきたい。すなわち、パルーンカード作成とともに、「どんな風感じたか」「どんな言葉で伝えようとしているのか」を聴き合う時間を適宜設けていくことで、「なるほど、そういう感じ方もできるな。」「同じ文章を読んでいるのに、感じ方はそれぞれだ。」ということを感じさせていきたい。毎時間ノート等に振り返りを書くのは年間を通じた取組であるが、本単元においては、振り返りの中で「〇〇さんと感想が違った。」「どこに興味をもって紹介するかは、人それぞれだ。」というような記述をする子どもの姿を目指す。教師の関わりとしては、考えや感想が同じか違うか、どのように違うかを尋ねながら、人との違いの自覚を促すとともに、「〇〇さんと違って…。」というような発言や記述内容を価値付けていくようにする。

2. 単元の目標

- ◎筆者の考えとそれを支える理由や事例との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)
- ◎文章を繰り返し読んで理解したことを基に、自分自身の体験等と結び付けながら感想や考えをもつことができる。(思・判・表C(1)オ)
- ◎バルーンカードに書き表された要約や感想を共有することを通し、一人一人の感じ方に違いがあることに気づいたり、よさを伝えたりすることができる。(思・判・表C(1)カ)

3. 単元構成(8時間扱い)

時数	学習活動	評価
1	○範読を聴き、心に残った事柄や文をノートに書く。 ○言語活動と本単元で高める	

	力を知る。	
2	○学習計画を立てる。	知・技 (2)ア 思・判・表C(1) オ
3	○学習計画を進める。	
4		
5		
6	○特に心に残ったことを中心に要約し、よりよいまとめ方を追究する。	思・判・表 C(1)カ
7 (本時)	○心に残ったこと・感想をまとめ、よさを伝え合う。	
8	○バルーンカードを仕上げ、学習を振り返る。 【文章の概要】【特に心に残った部分の要約】【心に残ったこと・感想】	

4. 本時の目標と展開(7/8)

- 要約と感想を書きまとめ、その内容について聴き合うことを通して、一人一人の感じ方に違いがあることに気づいたり、よさを伝えたりすることができる。【思考力・判断力・表現力等】
- 友達が書いたものを熱心に読み、よさや改善点を適切な言葉で伝えようとする。【学びに向かう力、人間性等】

子どもの学習活動	教師の関わり
<ul style="list-style-type: none"> ○本時の課題を確認する。 <li style="border: 2px solid black; padding: 5px;">要約と感想を書きまとめ、よさとアドバイスを伝え合ってみる。 ○全文音読する。 ○要約と感想を書きまとめる。 ○書かれたものを読み合い、よさや改善点を聴き合う。 ○本時の学びを振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第6時において、「要約があと少しで仕上がる」「要約ができあがった」「要約ができて、感想を書き始めた」の大きく3つの段階に子どもがいることを想定。各グループおよび個人の進捗を把握した上で本時に入る。 ・これまでの学びで理解した事柄について確認しながら、音読するよう方向付ける。 ・上記の進捗に応じて進めつつ、「時間内にここまで完了する」という見通しをもつよう声をかける。 ・バルーンカードは、『風船でうちゅうへ』を読んだことのない人に渡すことを常に意識させ、改善点を考えさせたい。 ・読み合った時に感じた他者のよさや誰にどんな改善点を伝えたかを記述するようにする。 ☆実名を挙げながら、記述内容のよさや自分がしたアドバイスについて振り返っている(観察・ノート)